

私たちはジェンダー平等の実現につなげるために、ほぼ人類の半分が体験する生理について話し合い、調べることにしました。まず、自分たちの経験を話し合うことで、生理への思いや体験、周囲からの反応もさまざまであることが分かりました。女性本人からも男性からもマイナスのイメージを持たれがちな生理。日常の中で、声に出して話題にしにくい雰囲気もあり、生理によって生きにくさを感じる人も多そうです。私たちは、「生理」は私たちの日常や生き方、人生にまで影響を与えていると考えました。「生理」について考えることはジェンダー平等に確実に繋がると思い、生理の仕組み、歴史、現状を調べ、全校生と先生方にアンケートを行いました。男性は、生理について問いかげられること自体初めての人が多く、新鮮な体験であるとの反応が多くありました。アンケート結果と考察を中心に、発表の一部をご紹介します。

生理の歴史

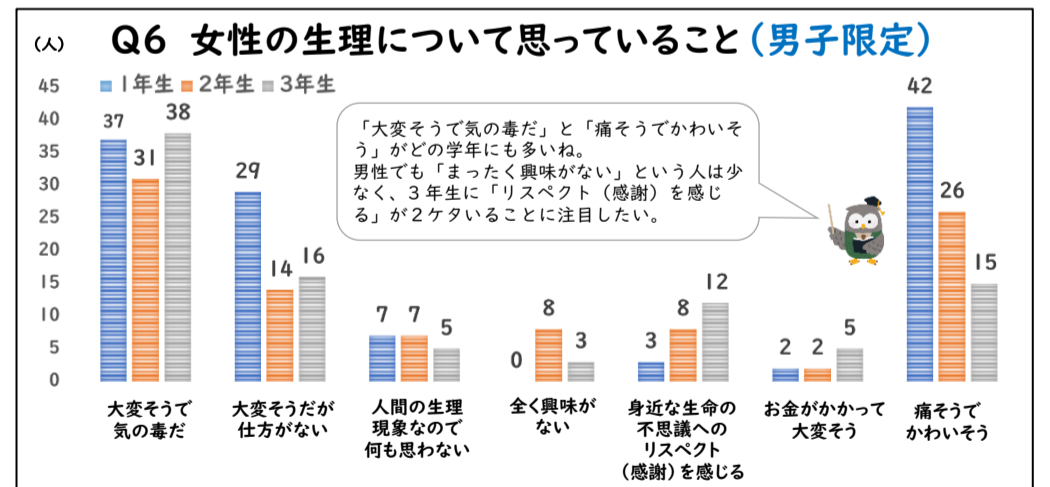
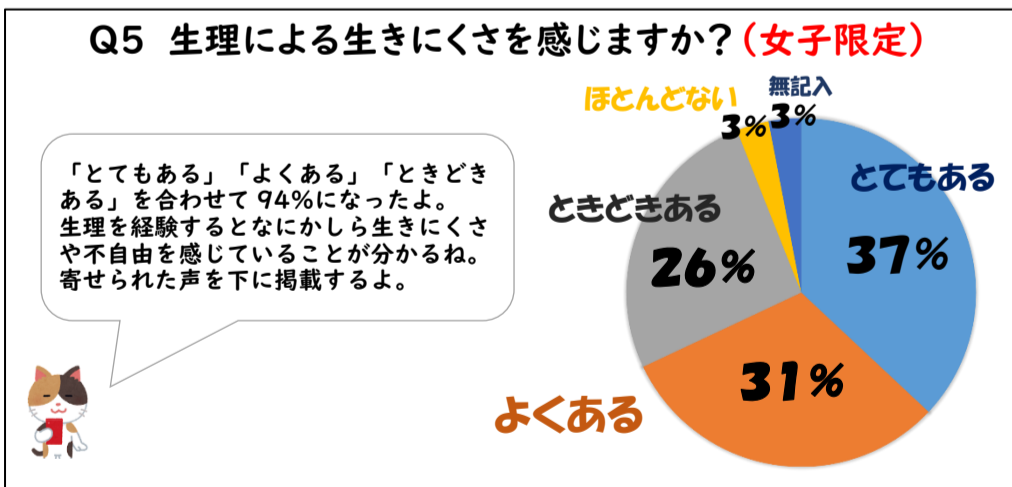
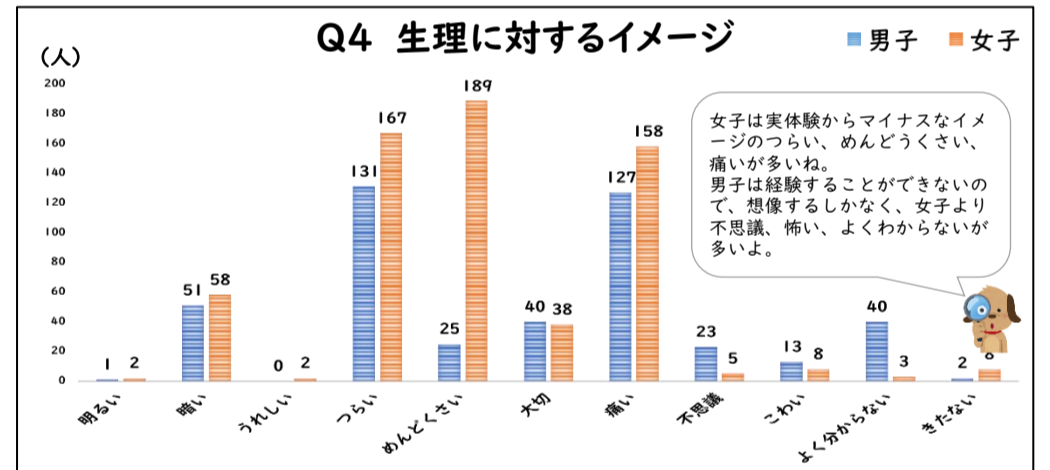
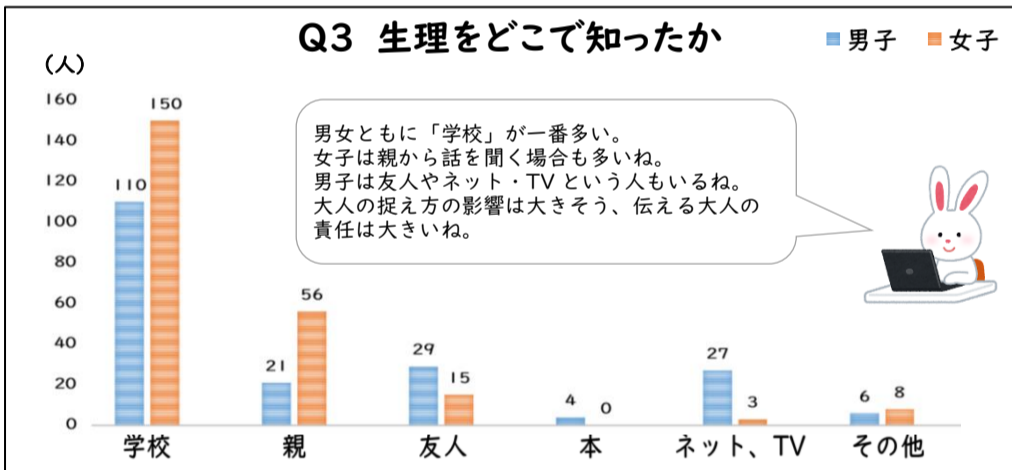
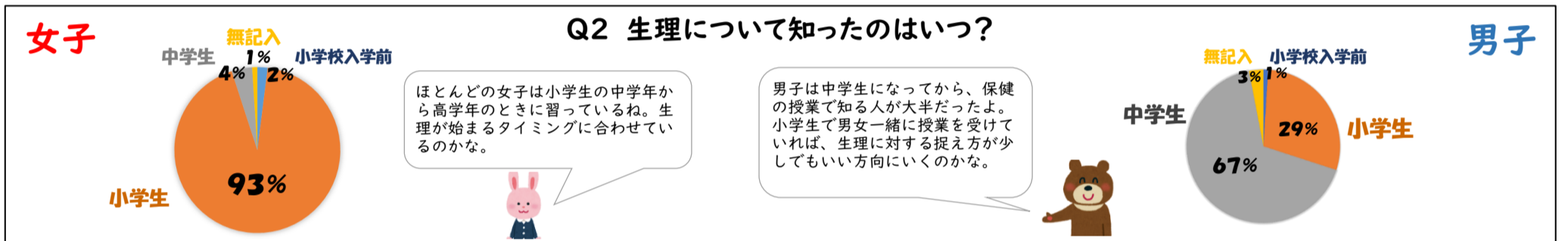
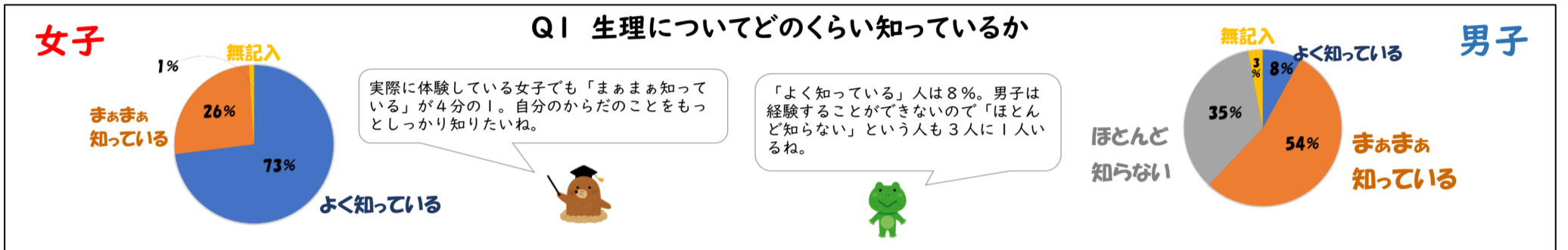
江戸時代には、月経をぼろ布や紙で押さえたり、月経小屋と呼ばれるような離れた場所に隔離されたり、ということがありました。明治になり、月経帯とよばれる帯に脱脂綿をあてて使うようになり、1961年にアンネナプキン発売開始。女性たちはナプキンにより、高度経済成長の社会へと進出していくことができたのかもしれない。

生理の今

コロナ禍の現在、経済的困窮が深刻化し、生理用品が買えない「生理の貧困」を訴える声が広がりました。最新の生理用品事情はナプキン使用が9割、タンポン、布ナプキン、月経カップ、吸収型サニタリーショーツなど、新しい製品も開発されています。生理痛、PMSなどの生理に伴う困難に、ピルを服用する医療も広まっています。

「生理」について全校アンケートの結果と考察 ~アンケートから見えること~

対象：全校生 457名 (女子 248名、男子 209名)



Q5「生理による生きにくさ」について、どのような生きにくさ(大変さ、不都合)を感じるか、自由記述より複数回答で多かった順に一部抜粋

生理痛やPMSがつらい・体育や部活での動きにくさ・めんどくさい・大会や試合とかぶったとき・同性異性ともに理解されにくい・メンタルが安定しない・イライラする・体の痛みやだるさ・経血が漏れていないか心配・集中できない・眠くなる・日常生活に支障が出る・月に一回来るのが大変・プールや温泉に入れない・男性の先生だと生理のことを話せない・お金がかかる・体調が悪くても学校を休めない・いつ生理が来るか不安・男子に生理痛を分かってもらえない・授業中にナプキンを常に気にしている・夏が大変・寝ているときも気にしてはいけない・隠さなきゃいけないみたいな雰囲気がある・休み時間が短いのにナプキンを換えないといけない・生理期間の一週間が長く感じる・症状や痛みのつらさに個人差がある・臭い・生理痛でまともに歩けない・生理用品を店で買うとき少し恥ずかしい・ナプキンを忘れたときの絶望感

生理が変われば世界が変わる

全校生のアンケートにより、女性も男性もまず知ることから始まると考えました。女性から男性に伝えることも、男性から女性に尋ねることもよいでしょう。きっと男性は、「大変そうだな」と思いながらどう触れていいかわからずにいる、そんな気持ちもアンケートから伝わってきます。私たちは、探究活動の中で、「生理ちゃん」(KADOKAWA)というマンガに出会いました。小山健という男性漫画家の作品です。ストーリーの中で生理について知ることができ、かつ、男性の性についても描かれ、異性の生きにくさが分かりやすく表現されています。「生理ちゃん」を読んで、生理についての女性の気持ち、男性の気持ちを知ることから始めてみませんか。「生理」が変われば「世界」が変わる。身近な「生理」について考えることは、ジェンダー平等への確かな一歩となるはずですよ。